



4年間町政は混迷したのではないか

町長 それぞれの場面で適切に判断してきた

春日 隆司 議員

4年間混迷したのではない

質問 この4年間、議案の撤回、否決等結果からすると混迷・停滞期であったとの評価があるが、その原因は何なのか。

町長 それぞれの場面で適切に判断している。真摯に受け止めている。

再質問 混迷の中で職員の高ストレス者が170人中31名(18%)と異常な数値であるが。

町長 社会経済情勢の急減な変化に大変苦勞している。人事管理・労務管理等の対策を今後やっていく必要がある。

再質問 町長は経営者であり自ら責任を感じ、明確な指示とコミュニケーションを図る必要があったのではないか。

町長 現場へ毎日行くことはできない。担当責任者である課長職に委ねて行政運営を行っている。

自治条例の見直しは

質問 自治基本条例の見直しをするとのことで、議会に示して再協議したとのことであったが。

町長 意見の一致を図ってきたが、なかなかそこまでかなわなかった。今後検証して改正の方向で努力したい。

4年間の成果は

質問 財政状況の悪化、行政運営の高コスト化、住みづらくなったなどの中で、4年間の成果を客観的な根拠、数値でお示しいただきたい。

町長 人口が4.5%の減少と緩和された。住民満足度が9.8%増加した。農業

用所得が伸び個人町民税が14.8%増加した。今と未来のしもかわづくりを行い、幸せ人口の増加を目指したい。

再質問 9.8%増加の数字の事実は、農村と一の橋が伸びたものである。豊かでない人が5%伸びている。自然が豊か、交通網が整っているかどうかの質問回答である。農業所得増加は、国内の畜産業の好転であり、町の施策効果が要因ではない。

財政状況は悪化

質問 24年度から29年度を比較すると交付税が6億2千万円減と言っているが、23年の交付税と比較すると29年度は1億円しか減っていない。正確な情報を公表しなければならない。貯金は23年度から約10億円減っている。借金は23年度は50億円で今は64億円。SDGsに取り組んでいるが財政

が持続出来なければ基盤が揺らぐ。

町長 財政規律はしっかりと図っていききたい。基金を取り崩し、以前から計画していた事業を継続して整備してきた。

再質問 財政状況(お財布)を見ながら、事業をやる、やらない、遅らせる、それ考えるのが町長なのではないか。

住みよくなったのか

質問 26年度住みよいと答えた人は79%、29年度の結果は73%であり住みづらくなっているのでは。

町長 イメージは、8割位が幸せになってきたのではないか。

再質問 数字が示す客観的事実は住みよいまちとはなっていない。